

2023年3月

小牧市障害者団体連絡会通信

No.12

つながって → ひろげる

2022 年度障害者団体交流会

「選挙のバリアフリーを考えよう」を終えて

共同代表 山中和彦



▲第1部は「わたしの1票を！～障がいのある人の投票環境を考える」と題して、狛江市副市長の平林さんにご講演いただき、オンラインで狛江市手をつなぐ親の会会長の森井さんよりメッセージをいただきました。

2月5日は、愛知県知事選、小牧市長選、小牧市議会議員補欠選挙が行われました。また、4月には統一地方選挙があり、小牧市議会議員選挙も行われます。

その間の3月5日に、障害者団体交流会として「選挙のバリアフリーを考えよう」を企画しました。当日は、各地の行事と重なり参加者が少ないのではないかと危惧しましたが、会員のみなさんの働きかけにより、現地40人、オンライン12人の参加があり、また、NHKの取材もあってたいへん充実した集会となりました。

私たちが「選挙のバリアフリー」に取り組むのには、理由があります。選挙権は参政権の一部として人権として保障されなければなりません。2013年の公職選挙法の改正により、表向きは選挙権は、性別、財産の有無、障害の有無や重さを問わず成人者全てに認められるものですが、実際のところは、バリアがあり完全に保障されてはいません。

選挙は、公的な制度であるため、当事者だけが頑張っても選挙のバリアはなくなりません。行政も支援団体も揃って取り組む必要がある課題なのです。

選挙のバリアフリーは、社会モデルとしての障害一社会の側が変わらなければならないに具体的に取り組むことのできるテーマ(課題)です。このテーマに取り組むことが、(講演の中で、平林副市長が最後に言うておられたように)障害のある人に対する合理的配慮をすすめるきっかけになるものと考えています。

第2部の意見交換会でも、がんばって投票に行っている障害のある当事者のみなさんが、積極的に発言されていました。投票所にいる市役所職員もスタッフも、必ずしもプロではないとのこと。行政の側も、当事者の側も、支援者も学ぶことは多い。3月5日の集会は、選挙のバリアフリー実現に向けたスタート。いいスタートが切れたと思います。みなさんといっしょに、しばらくは頑張っ走りつづけたいです。

●NHKニュースはこちらから →



●「選挙のバリアフリーを考えよう」

YouTube 動画配信はこちらから →



<http://komaki-sdr.sakura.ne.jp/wp/?p=862>

「選挙のバリアフリーを考える」開催報告

第1部は東京都狛江市の平林副市長より、選挙制度の説明と狛江市での取り組み等が話されました。

狛江市が障がいのある人の選挙のバリアフリーを考えてきた経緯は、平成25年3月、成年被後見人である知的障がいの方が、あたりまえの投票権を奪われていることを訴えた裁判がきっかけです。東京地裁の裁判長から、「どうぞ選挙権を使って社会に参加してください。堂々と胸を張っていい人生を生きてください」と言われたことで、被後見人の選挙権が回復しました。手をつなぐ親の会の森井さんによると、当時福祉部長であった平林さんからメールがあり、成年被後見人の選挙権が回復したので実際に行使するためにどうすればよいかという問い合わせがあったとのこと。森井さんは後見人が付いていない知的障がいの人のことも同時に考えてほしいと伝え、その後、福祉課や選管、社会福祉協議会等が話し合い、当事者の思いや期待が大きい中、公職選挙法の厳しい縛りがある中で、どこまでできるか妥協案を探りながら取り組まれていったようです。

平林さんは「選挙は自分たちの代表者を選ぶこと！」選挙＝社会参加そのもの、誰もが快適で安心して暮らすために大切な行為、選挙は憲法に基づく民主主義の根幹と言われていました。その中で知的障がい者の投票行動を支援するためには、投票のバリアフリーと選挙情報のバリアフリーを車の両輪と考え、知的障がいの方の意思に寄り添う姿勢で進められたそうです。体験投票の取り組みを行い、投票をサポートする事務従事者が必要な配慮を体験する中で、出された課題をマニュアル化することや、誰もが投票しやすい環境整備として支援シートを作り、ポスターに障がいのある人の投票支援をすることや投票しやすい投票所を目指すこと



▲当事者からは、投票時の体験談やバリアになっていることなどの発言もありました。



▲第2部の交流会で、参加者からの質問に応える平林副市長(写真中央)と林さん(写真右)。

を書いて張り出したそうです。また貸出物品のお知らせや代理投票のリーフレットの作成等もされました。また、「わかりやすい演説会」を行い、回を重ねるごとに候補者も創意工夫して政策を伝えようとされてきたようです。立候補予定者をカード型にして各事業所に配布し、わかりやすい選挙動画の作成もされたそうです。そして選管・福祉部門・当事者・事業所等が支援の役割分担を行い、みんなで話し合ってルールを作ったとのこと。この選挙のバリアフリーの取り組みで福祉への理解は着実に進み、職員たちの対応スキルはかなり上がったそうです。副市長は、「私たちはここにいる」と投票に行ってもらい、そこから合理的配慮のマニュアルも充実していくと言われていました。また、政治家たちもみんなの行動を見ているし、それにより考え、工夫されるとも言われました。

森井さんからは、実際に投票に行かれた自閉症の方のビデオを見ながらのお話もありました。不安を防ぐためにヘルパーが同行することやおもちゃを持ち込むことも相談し、「落ち着くため」ならよいと言われたそうです。

第2部では瀬戸市でラジオのパーソナリティーをされている林さんも加わり、障害のある娘さんの選挙への取り組みの話も聞かせていただき、その後会場の参加者からの感想や質問に副市長と共に応えていただきました。投票の際に投票したい人の名刺やメモ(誰が書いてもよい)を持って行ってもよいこと等、知らないことを色々聞くことができました。副市長は地域、学校とも連携して、主権者教育もしていると言われました。ここでは、自分で決めることと、みんなで決めることの二つを教えているそうです。日本国民としてあたりまえの権利を障害のあるなしにかかわらず行使していくことの大切さを強く感じたお話でした。(御手洗)

「選挙のバリアフリーを考える」アンケートより

【支援者として】

- ・誰もが選挙に行く大切さを知った。そうすることで様々な人が選挙をすると認識し、色々な分野での改善につながることを知った。
- ・障害のある方の声が聞け、投票所での困りごとを教えてもらえ、支援者として手助け出来るよう勉強する機会になった。

【障害者の家族】

- ・事前に体験をすることが大事だと思いました。選挙までの練習などとても参考になりました。
- ・19才の息子は重度の知的障害のため、選挙は投票できないものと思い、行ったことがありませんでしたが、今日の話聞いて、大事な投票権、次回は事前準備をして挑戦してみようと思います。
- ・とても良い内容だったので、市の職員の方や、選挙管理委員会の方にも話を聞いてもらいたいと思った。
- ・障害の有無に関わらず、学生の人たちにももっと伝えていく(学校の先生方にも考えてもらう)ことが大切だと思った。
- ・代理投票ができることや、当日、間違えた時に新しい投票用紙と交換できることを知りました。投票前に、前もって立候補予定者カードを頂けるのは、とてもわかりやすく、代理投票もしやすくなると思います。

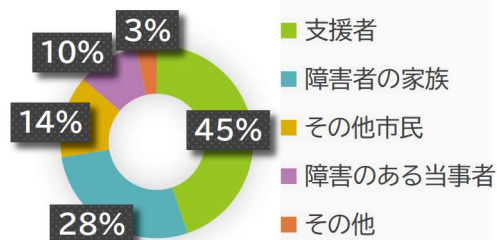
【その他市民】

- ・障害のある人も、当たり前に参加できるようになると良い。ならないといけないと思いました。小牧でもバリアがなくなると良いと思います。
- ・狛江市の官民連携し、対話して投票しやすい場をつくっていく取り組みに感動しました。もし、小牧で取り組みをするならお手伝いをしたいです！

【障害のある当事者】

- ・平林副市長や森井会長などの働きで選挙の方法が変わってきたように、よりよく改善されるよう、小牧市でも取り組んでいく課題だと思う。

参加した方の立場



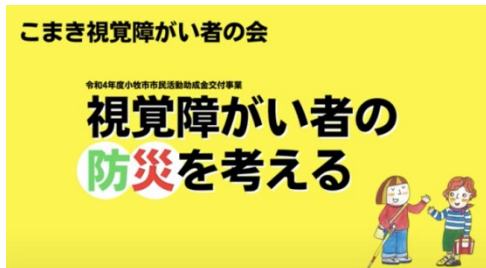
団体活動報告

こまき視覚障がい者の会

12月10日(土)クリスマスイベントを開催しました。午前は点字用紙を再利用しクリスマスツリー作りのワークショップ、来場者に思い思いのデコレーションをしてもらい、素敵なツリーをお持ち帰りいただきました。午後からは、いつもお世話になっているガイドヘルプ友の会、声のボランティアかっこう、市民ボランティアの皆さんを招いてクリスマス交流会。一年の活動を振り返りながらクイズ大会、ダーツ、ビンゴゲームなどで大いに盛り上がりました。

2月12日(日)には岐阜アソシアの歩行訓練士棚橋公郎先生と、愛視援の歩行訓練士坂部司先生をお迎えし「視覚障がい者の防災を考える」を開催しました。棚橋先生は東日本大震災や熊本地震などの被災地に駆けつけ、視覚障がい被災者一人ひとりを訪ね歩き、安否確認や支援をしておられることから、現場での貴重な体験談と教訓をいただくことができました。その後、視覚障がい者と晴眼者の参加者とグループディス

カッションを行ない、それぞれの立場から問題を考えました。坂部先生からは愛知県での視覚障がい者の防災について、どんな対策が進められているかなどお聞きしました。近い将来、来るであろう災害についてただ漠然と「避難する」だけではなく、「備える」「どう行動するか」「何ができるか」を具体的に自分事として考える良い機会をいただきました。(山下)



■「視覚障がい者の防災を考える」の講演会の様子は YouTube で視聴できます ➡➡➡



小牧市難聴・中途失聴者協会

12月は、毎年「耳の不自由な方の交流会」です。今回も広報の「わくわくガイド」に案内を掲載し、新しい難聴者に来ていただけるかと期待していましたが、どなたもいらっしゃらず、今年度は残念ながら、新しい会員を増やすことはできませんでした。

1月は「新年会」を開催し、新年の抱負を話してから「開運お菓子のつかみ取り」さ～て、いくつ掴めるでしょうか？ ゲームや



▲新年会で川柳かるたを楽しむ会員。

おしゃべりを楽しみました。2月は会員の希望があり「日常生活で使える簡単な手話」を皆で楽しく学びました。さて次回までにいくつ覚えているのでしょうか？ 3月は「次年度の行事の話し合い」をします。どんな計画になるか楽しみです。

小牧市広報（令和5年2月15日号）「特集 街で見かける障がい者のマーク」のところに「耳マーク」の説明があり、会長のコメントも載りました。「聞こえないことを周りの人に自ら伝えることが大切である」ことを、これからも周知して、1人でも多くの難聴者が耳マークを活用してほしいと思います。（古木）



【耳マーク】

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク。

ここぱりこまき

1月21日（土）のミーティングで、3月12日に開催する発達障害についての研修のテーマを「発達障害を知ろう」～基礎知識と関わり方のヒント～と決め、一般の人に呼びかけることや日程などを話し合いました。また広報の3月1日号に載せることも決め、2月23日（木）には進捗状況の確認や、内容の具体化、役割分担を話して当日を迎えました。

ここぱりにとって、発達障害についての研修をするのは3年越しの課題です。コロナ禍でもあり、募集人数は少なめ（会場20名）で、ZOOM参加も可能として呼びかけました。当日は、障害のある方の家族や支援者、ボランティア等17名の参加でしたが、小児科医の石川先生から、診断をつける意味や



▲コロナ禍で、すっかり定着したオンラインによる研修会。

会社や学校でのトラブルのエピソードから、どういう理由が考えられるか、その上での解決策等、具体的なお話をしていただきました。そして、生まれ持った特性は変わらないが、本人がどんな環境で育ち、何を身につけてきたかが大切ということや、パニックへの対応などの話もありました。少人数でしたが広報を見て参加してくださった方もあり、アンケートでまた参加したいとご意見をもらえたので、また今後に生かしたいと思える取り組みとなりました。（御手洗）

小牧市おもちゃ図書館きらら

12月18日(日)、今年もKAKERUさんをお招きして、ふれあいセンター大会議室でピアノコンサートを行うことができました。

「アンパンマンのマーチ」「おもちゃのチャチャチャ」「クリスマスメドレー」では子どもたちは立ち上がり、マライアキャリーの「恋人たちのクリスマス」では思わず踊り出す子もいて、周りの大人はほっこり。M君のリクエスト「大きな古時計」に思いがけず感動。「戦場のクリスマス」は圧巻…。KAKERUさんのピアノ演奏にどんどんひき込まれていきました。いつまでも聴いていたかったです。音楽って本当に人を癒してくれます。心がこもった演奏で、リクエ

ストにもたくさん応えてくださった KAKERU さんに感謝です。『きらら』からは、子どもたちに手作りおもちゃ「ゆらゆらサンタさん」を、プレゼントしました。紙コップにガチャガチャのカプセルをつけて作った起き上がりこぼしです。サンタとトナカイと雪だるまの三点セット。中にはお菓子も入っています。家に帰ってから、家族で温かい部屋でゆらゆら遊んでお菓子を食べて…素敵な時間を過ごしていただければ嬉しいです。



きららの活動も今年で30年を迎えました。これまでの活動を振り返り、記念誌「おもちゃ図書館のあゆみ」を作りました。これからも必要としてくださる方たちの居場所として、運営のお手伝いを続けていきたいと思っています。(船橋)

▲30周年記念誌には、活動記録のほか、ボランティアや、おもちゃ図書館の利用者など関りのある方々からのメッセージが載っています。



▲ふれあいセンターの広い会場で、くつろいで演奏を楽しみました。

小牧市肢体不自由児者父母の会

陽射しが暖かく春めいて来ました。コロナも類型が変わり、社会的にも「日常」をとりもどしつつあります。それでも、体力面で不安を抱える身体障がいを持つ子どもとの生活の中では、まだまだ不安がいっぱいです。様子をみながら、慎重に私たちも「日常」をとりもどしていきたいと思います。



▲研修会のあとの懇親会で、重症心身障害児(者)を守る会の方より挨拶がありました。

3月11日に愛知県肢体不自由児者連合会の研修会で「成年後見人制度」について、学び直してきました。直近の3月5日に、小牧市障害者団体連絡会が開催した「選挙のバリアフリーを考える」で、講師の平林副市長さんから「意思のない人はいない」とあらためて教えていただきましたが、たとえ後見人がついたとしても、大切な一票、選挙権を正しく行使できるように、支援制度が整うまで時間はかかると思いますが仲間にも声をかけながら頑張っていこうと思います。(上田)

しきの会

3月11日、12日と広島の Unicorn(ユニコーン)社(障害ある方の補装具費の支給となる”重度障害者用意思伝達装置”をつくる開発会社)の代表取締役・中島さんを招き、その技術を結集させ多くの方が障害有無なくスポーツを共にできる miyasuku スポーツ体験会を開催しました。体験会は支援者向け、全ての方向けと目的別に企画をし、当事者からは試行錯誤の先の「できた！」の笑顔が広がり、支援者にはしっかりと手応えを感じていただけ熱意ある質問が飛び場面もありました。



▲miyasuku スポーツ体験会

「視線で動かすのはとても難しい、だからこそ楽しめた」と何回もトライすることもさんも多くみえました。しきの会からは「この技術があると、重い障害の方がみんなとお話が出来たり、ものを動かせる。でも、とっても難しいから沢山練習をしてやっと自在に動かせるってことがわかってもらえたかな？」とアナウンスをしました。また 12 日午前には駅前図書館で映画『うたこちゃん』の上映会も行い、重い障害と共に地域で家族

や支援者に支えられ、暮らす日常の「あたりまえ」を多くの方に知っていただきました。どちらのイベントも大変盛況かつ好評をいただき、これからの活動もしきの会らしく頑張りたいと思いました。(関)



▲『うたこちゃん』上映会には、約 90 人の参加がありました。

■楽しいを一緒に。

「しきの会」<https://shikino-kai.com/>

公式 LINE アカウント



※しきの会への問い合わせは、しきの会の HP 内の”問い合わせフォーム”へお願いします。

【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000 円) ■団体賛助会員(年会費 1,000 円) ■個人賛助会員(年会費 1,000 円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援してくださる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50 音順)：正会員(7) 賛助会員(5)

【正会員】犬山・小牧地域腎友会、ここばかりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会、しきの会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2023年3月発行
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
【メール】mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
【ホームページ】<http://komaki-sdr.sakura.ne.jp>

※視覚障害のある方へ
ホームページに本通信の
テキスト版があります。

